

小郡市教育委員会から保護者・地域の皆様へ

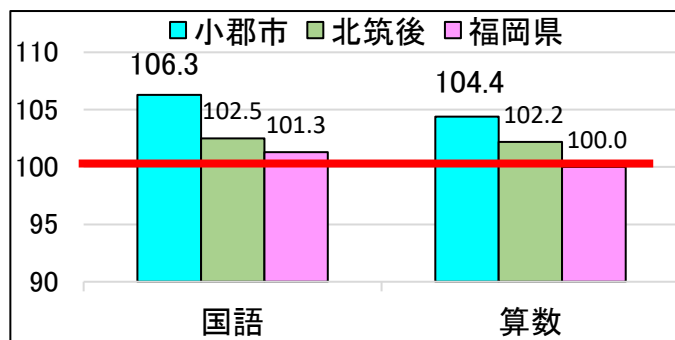
文部科学省は、小学6年生と中学3年生を対象に令和8年度「全国学力・学習状況調査」を4月に実施しました。小郡市全体の学力及び学習状況調査結果の概要と今後の取組についてお知らせします。

※本調査は「生きて働く『知』の学力」の一部を測るものであることを踏まえてご覧ください。

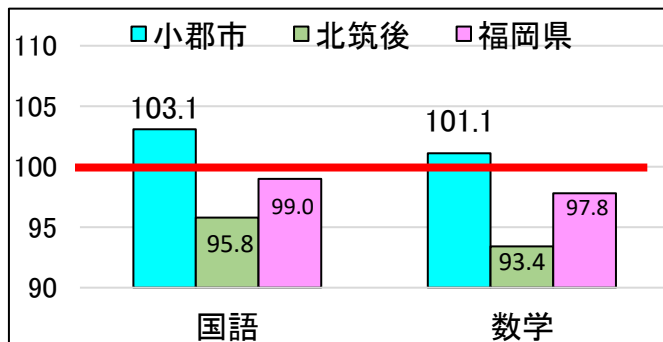
令和8年度全国学力・学習状況調査結果

※縦の目盛りは全国の平均を100(赤の横線)とした時の標準化得点の値で示しています。

【小学6年生】



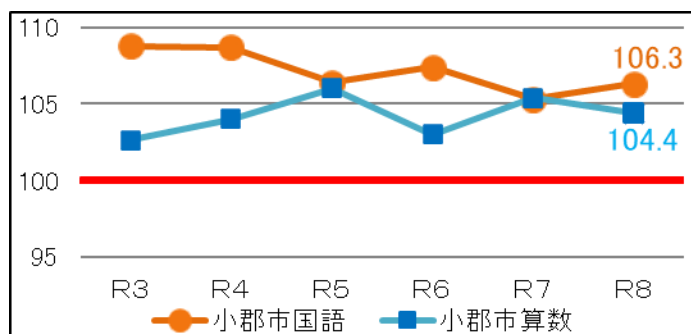
【中学3年生】



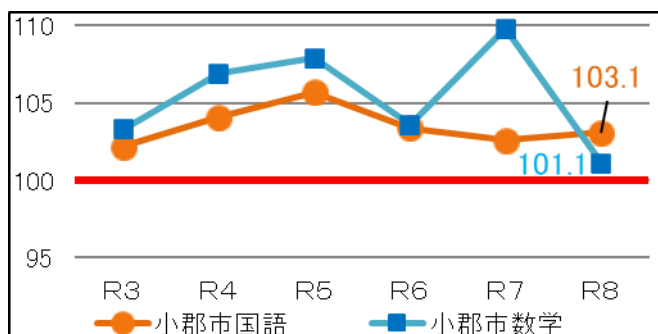
過去6年間の学力の経年変化

※縦の目盛りは全国の平均を100(赤の横線)とした時の標準化得点の値で示しています。

【小学6年生】



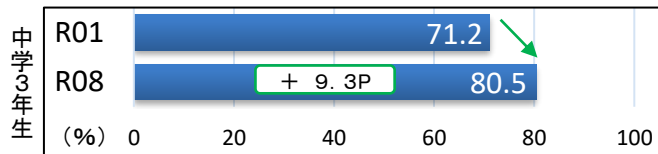
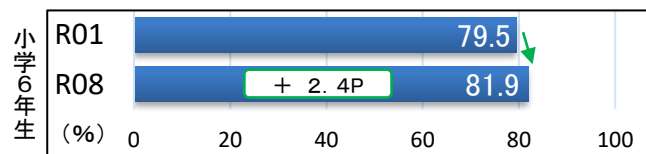
【中学3年生】



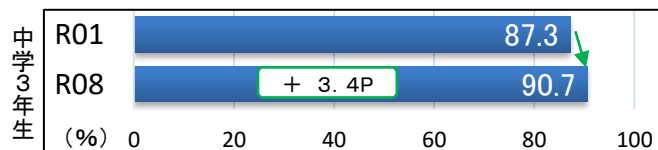
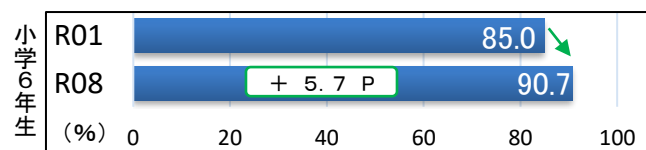
小郡市は、小・中学校ともに、国語・算数(数学)の値は、全国平均を上回っています。令和3年度からの過去6年間の経年変化を見ると、学校の授業改善の取組等により、継続的に全国水準を上回っています。

児童生徒質問から見える「小郡市学校教育推進構想」の観点からの子どもたちの育ち

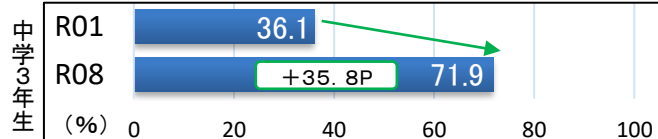
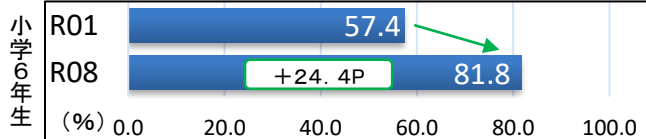
【自律】「自分には、よいところがある」と回答した割合(%)



【共想】「人が困っているときは、助ける」と回答した割合(%)



【郷生】「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した割合(%)

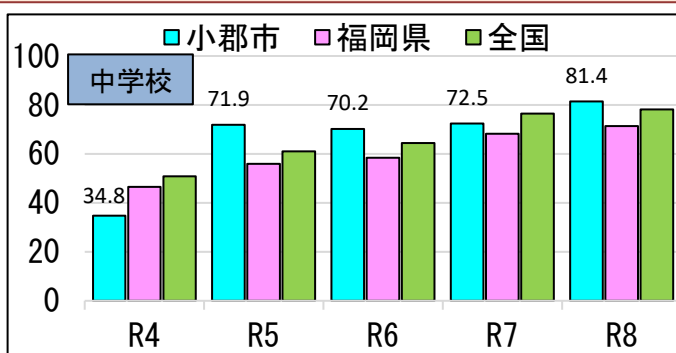
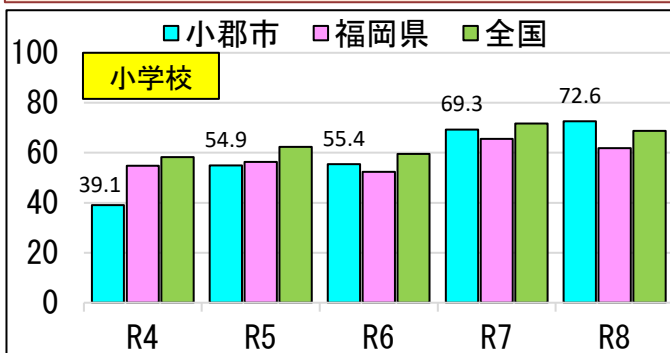


いずれの項目でも、令和元年度からの伸びが見られます。これは、「自律」「共想」「郷生」の3つの目標に向かって各学校で学校教育の重点目標を作成し、地域・保護者と連携した取組を積み重ねた成果です。

子どもの「ICT活用」と「主体的な学び」の成果と課題

下のグラフは、児童生徒のICT機器利用頻度(週3回以上活用)の市・県・国比較です。

(35) 今までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。※週3回以上

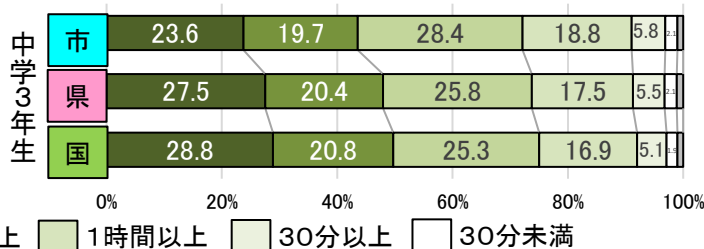
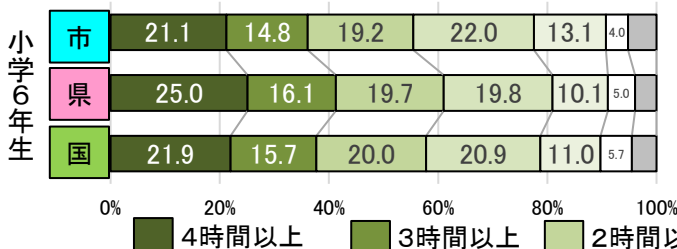


上のグラフからは、国のGIGAスクール構想のもと、**小都市の子どものICT活用が着実に向上してきた**ことが分かります。特に、今年度は、小・中ともに、福岡県・全国の値を上回りました。このような日常的なICT活用の成果として、**小・中ともに、「ICTを活用して情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツール等)ことに自信のある」児童生徒の割合が高くなっています**。一方で、**小・中ともに、「発表のスライドを作成することに自信のある」児童生徒の割合が少ないことが課題です**。今後は、ICTを使って自分の考えを表現する場面でのICT活用を積極的に取り入れ、児童生徒の表現(アウトプット)を重視した「主体的な学び」につなげていくことが大切です。

SNSや動画視聴の時間についての課題

下のグラフは、児童生徒がどのくらいSNSや動画視聴をしているかの市・県・国比較です。

(4) 平日、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話でSNSや動画視聴などをしますか。



上のグラフからは、**平日、1日当たり3時間以上SNSや動画視聴をしている市の小学6年生が35.9%、中学3年生が43.3%いる**ことが分かります。国の分析では、動画視聴の時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られ、小都市においても同じ傾向が見られました。そこで、このような状況と課題を共有し、使い方を自己決定する等、自分事としてよりよい生活習慣について考えさせる必要があります。

小都市における今後の取組

小都市では、上記に紹介しました子どもたちのよさ・課題を踏まえ、学校、家庭、地域三者で協働して、子どもたちの「未来に向かい 未来を拓く力」を育てて参ります。

市の取組

☆ICTを効果的に活用し、自己調整による“主体的・対話的で深い学び”の日常化を推進します。

☆ICT(AIを含む)の活用についてガイドラインや、情報モラル基底カリキュラムの見直しを行い、周知します。

ご家庭へのお願い

以下についてご協力をお願いします。

☆携帯電話やSNS等を使用する際は、使用時間を含め、家庭でルールを決めて子どもと一緒に使用状況を確認合う。

☆子どもの話をよく聞いてあげることで子どもの頑張りを見守り、励まし、褒めてあげ、自信をもたせる。

学校の取組

☆子どもが「自分で選び」「自分で決める」ことを重視した日常的な授業改善を各教室に浸透させます。

☆「情報モラル教育」において、SNSや動画視聴の長時間化の実態や、健康及び学力との関係性を考えさせます。

地域へのお願い

以下についてご協力をお願いします。

☆地域において、子どもたちが貢献・活躍できる場をつくり、子どものよさや頑張りを認め、称賛する声かけをする。

☆学校の学習や活動へのボランティア(ICT支援、丸付け、ふるさとの魅力紹介等)へのご協力。